

再評価【番号1】

農地中間管理機構関連農地整備事業
芳崎地区

1. 事業箇所(1)



1. 事業箇所(2)

小規模で不整形な農地



未整備の排水路（土水路）



小規模な不整形な農地が多く、かつ用排水施設、農道が未整備であるため、耕作に多大な労力を要している。

3. 農地の「集積・集約」状況

現況

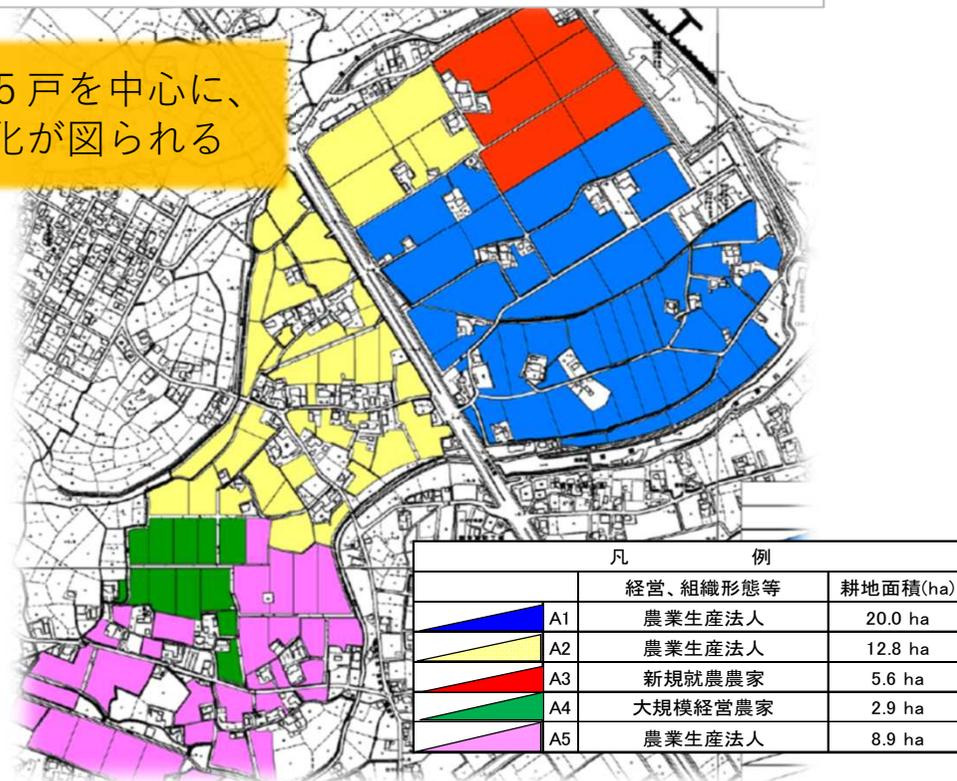
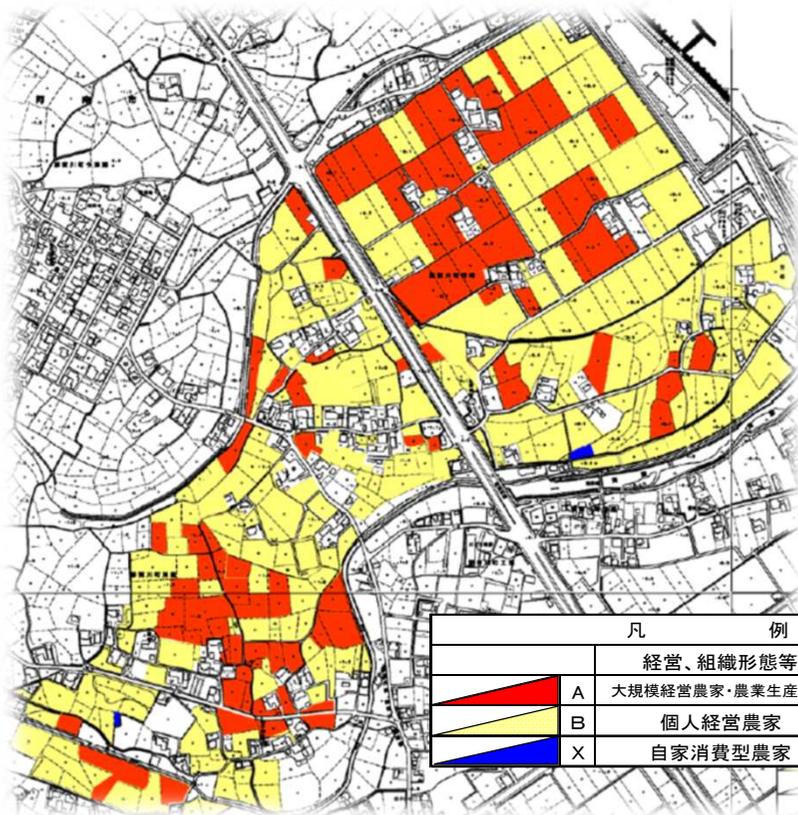
担い手農家	15.6 ha	4 戸
大規模経営農家	3.5 ha	1 戸
農業生産法人	12.1 ha	3 戸
個人経営農家	35.7 ha	81 戸
自家消費型農家	0.2 ha	5 戸
計	51.5 ha	90 戸

農地
中間
管理
機構

完了時（目標）

担い手農家	50.2 ha	5 戸
大規模経営農家	2.9 ha	1 戸
新規就農農家	5.6 ha	1 戸
農業生産法人	41.7 ha	3 戸
個人経営農家	0 ha	0 戸
自家消費型農家	0 戸	0 戸
計	50.2 ha	5 戸

担い手農家5戸を中心に、
農地の集約化が図られる



4. 実施状況(1)



施工前



施工後

4. 実施状況(2)

集積されたほ場での稲刈り状況



集積されたほ場での耕起状況



大型機械による作業効率化が図られた。

4. 実施状況(3)

農作業（水管理）の省力化



自動給水栓により水管理の省力化が図られた。

用水路工(自動給水栓)



5. 環境配慮(1)



採取 (アゼスゲ)



播種 (ミズタカモジ)



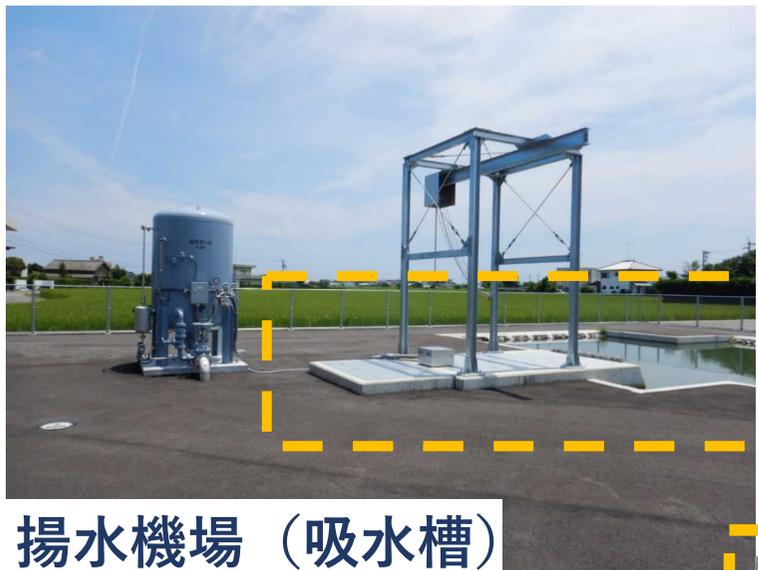
育苗 (ミズタカモジ)

< 軽減 / 消失 >

工事实施前に、種子や個体を採取し、
工事期間中に他の場所で「避難 (養生)」



5. 環境配慮(2)



揚水機場（吸水槽）

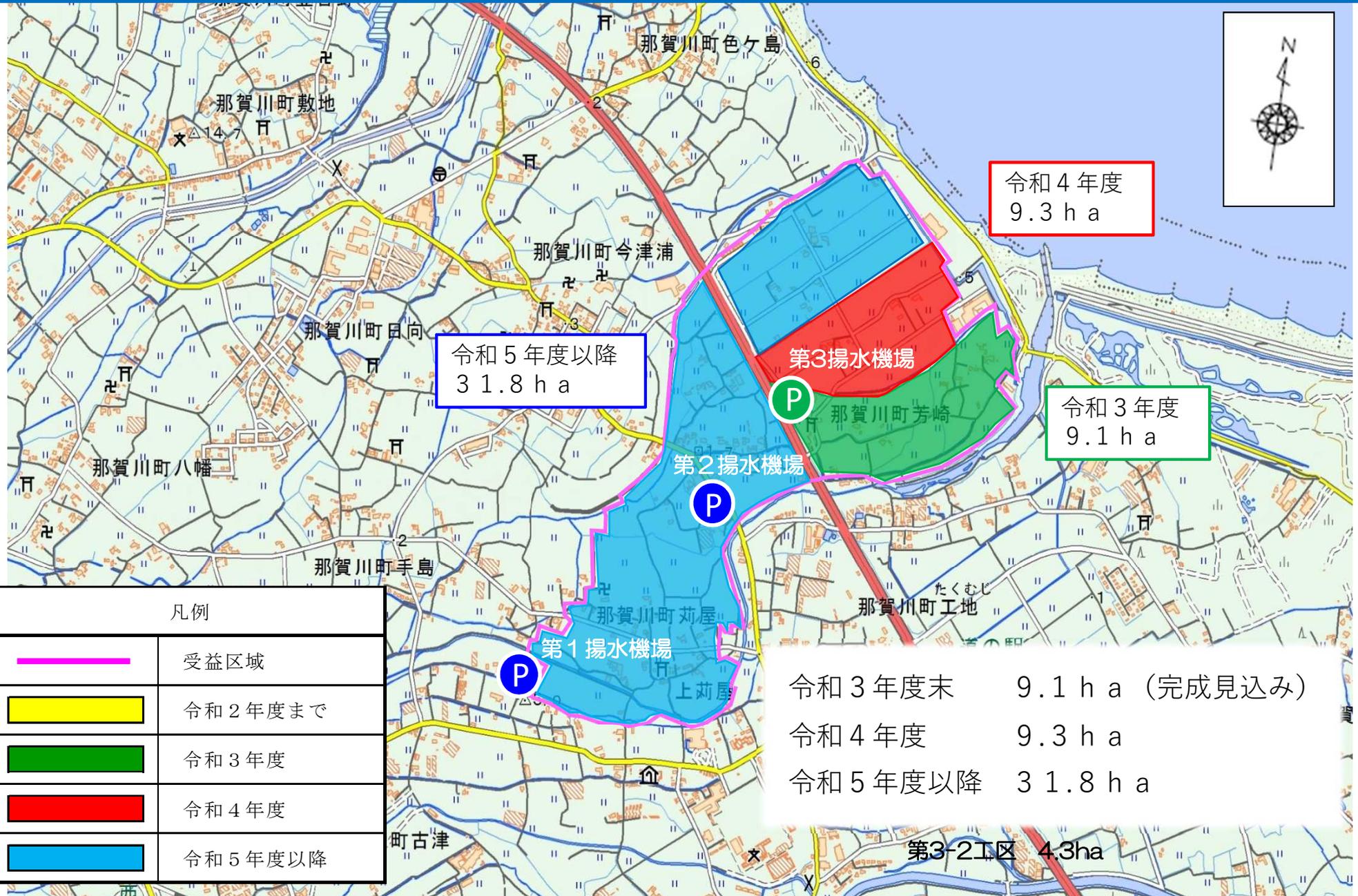
<最小化>

環境配慮ブロックの採用や吸水槽構造を緩勾配にすることで、
生物や植物の生息・生育に適した「空間を確保」



環境配慮型ブロック

6. 残事業と今後の見通し



7. 費用対効果

総 便 益

- 1 作物生産効果
- 2 維持管理費節減効果
- 3 営農経費節減効果
- 4 地籍確定効果
- 5 国産農作物安定供給効果

31億4,526万5千円

総 費 用

事業効果発現に必要な費用

21億1,396万1千円

$$\text{総便益} / \text{総費用} = 1.49$$

■ 今後の対応方針（案）

事業継続